
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.268 2021/6/8

1 「食品安全総合情報システム」公表

6月4日、食品安全委員会が公表した標記システムに次の記事が掲載されている。

米国食品医薬品庁(FDA)は5月13日、調査報告書「2020年夏のサルモネラ・ニューポート集団感染に関係する赤たまねぎ(red onion)の汚染に寄与した可能性がある要因」を公表した。概要は以下のとおり。

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05610280105>

FDAは、2020年6月から10月の間に米国及びカナダで1,600人以上の患者が報告された病因となったサルモネラ・ニューポート(Salmonella Newport)の集団感染の調査に関する報告書を発表した。当該集団感染は、過去10年余りで最大のサルモネラ食中毒事例である。本日発表された当該報告書には、遡及調査の概要、その後の現地聞き取り調査、栽培地域の視察、環境検体採取及びサルモネラ属菌による赤たまねぎの汚染に寄与した可能性のある様々な要因などが含まれる。

決定的な根本原因は特定できなかったが、赤たまねぎに関連する2020年のサルモネラ属菌集団感染に寄与した可能性のあるいくつかの要因が特定された。これらには以下が含まれる。

- ・汚染源である可能性がある灌漑用水
- ・隣接する土地でのめん羊の放牧
- ・糞便等の動物侵入の痕跡及び汚染を拡大する可能性のある鳥類の大群
- ・食品接触面の検査、保守又は清掃が、農産物の汚染防止に必要な頻度では実施されていなかったこと

カリフォルニア州Holtvilleで行われた検体採取で、10の水(灌漑水、浸透水及び排水)由来サブサンプル及び1つの堆積物由来サブサンプルでサルモネラ・ニューポートを確認した。しかし、これら検体の全ゲノム配列解析では当該集団感染株とは一致しなかった。

FDAは決定的な根本的な原因は特定できなかったが、赤玉ねぎに関連する2020年のサルモネラ流行にいくつかの潜在的な要因が同定された。農場や包装施設の観察の結果、汚染に影響した可能性のある要素は以下のとおり。

- 潜在的な農業用水の汚染源の存在
- 近隣における羊の飼育
- 動物が侵入した形跡の存在
- 食品接触面の洗浄・管理不十分

FDAは生産者に対し、農場周辺の土地利用を含めた農場段階のリスクを評価するとともに、必要なリスク低減対策を実施するよう促していく。